

## ◎ 2015年度同門会同門会賞受賞



滋賀医科大学 外科学講座（消化器外科）

竹林 克士（平成 17 年卒）

2014年4月、Annals of Surgical Oncologyに掲載された「Surgery-induced peritoneal cancer cells in patients who have undergone curative gastrectomy for gastric cancer.」に対して、同門会賞をいただき大変名誉な事と感じています。この研究テーマは私が大学院生の時に取り組んでいたもので、胃癌手術中の癌細胞散布とそれによる腹膜播種形成が胃癌腹膜転移再発の機序の1つであることを検証したものです。手術前後の洗浄腹水を比較し、PCR、細胞培養により癌細胞の存在を検索し、細胞培養にて増殖した癌細胞が腫瘍形成能をもつのかを mice を用いた in vivo model で検証しました。その結果、手術前の腹腔内に癌細胞が存在しない症例でも術後の洗浄腹水中には癌細胞が存在しており、それが播種巣を形成する能力をもっていることが確認されました。この内容は外科医が経験的に感じているものではありませんが、これまでは PCR での検証結果が報告されているのみでした。今回は細胞培養や Viability、腫瘍形成能までを証明した点に意義があるものと思います。

これまで毎年同門会賞の受賞式を見てきて、いつかは私自身も受賞できればと思っておりましたので、卒後 10 年前後で受賞できたことは大変嬉しい限りですが、この論文に関しては大学院生であった期間に多くの先生方から研究の進め方など御指導いただき論文発表まで結びついたものであり、支えて下さった方々のおかげで受賞させていただいたものと思います。この期間に得たものは論文発表だけでなく今後の研究活動に関する基礎を教えて頂いたことと思っています。重要なのはこれからも滋賀医大外科から新しい知見を世界に発信できるように日々精進することと心得ています。

この研究では術中の散布癌細胞が腹膜播種再発に関与するということを証明しましたが、今後はそれに対する予防手段や治療を確立していかなければなりません。それはこうした論文を発信した者の責務であり、それができれば、これまで私を支えて頂いた方々に対する恩返しともなるのではないかと思います。

大学院を修了し静岡がんセンター食道外科で食道手術を中心とした研鑽を経て、2016年4月に滋賀医科大学の上部消化管外科所属となりました。今後は滋賀医科大学外科同門会の一員として、滋賀県の医療、滋賀医科大学の発展に尽力する所存です。